

目的 前回はサイクリスの復元により 当時の材質 形態 構造 又これを通し 宗教的社会背景 生活様式等 13世紀初期における時代衣裳の構成を考察した

ゴシックと呼ばれるこの時代の建築がいわゆるように 力学的効果がうみ出す合理性が新たな人間性に内面的な影響を与え 被服の面でも建築と同じ合理性が 裁断という形で表現され、より人体的に より美的に発展してくる 今回はその過程にある サイドレスガウンをとりあげ構成を中心に考察した。

方法 中世における彫刻 絵画 服飾史およびフランス史跡博物館における石像撮影などを資料とし 又前回における復元の製作方法 着衣状態などを参考に復元した この時代の材質はルールで その感じを出すために コタルデイは 紫地の薄地ルールに金で 衿と裾廻りにししゅうした。

サイドレスガウンは 緑地に毛皮風の袖ぐりと 裾は金のししゅうをし 裏地はトルソーを強調するため赤を用いた。

結果 アミアン本寺の一年のくらしを初め ルーブル美術館など数少ない資料にみられる衣裳に人体美表現への変化のあとがみられ 当時のたくみな美的表現に感動すると共に 今回の復元は時代衣裳の構成に興味深く理解させるため 今後の指導に役立つものと思われる なお今後更に研究を続ける目的で現在次の復元を製作中である